

(様式第10)

日 医 大 病 付 ( 庶 ) 第 426 号  
令和 5 年 10 月 2 日  
開設者名 学校法人日本医科大学  
理事長 坂本 篤裕

厚生労働大臣 殿

日本医科大学付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 4 年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒113-8602 東京都文京千駄木一丁目1番5号
氏名	学校法人日本医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

日本医科大学付属病院
------------

3 所在の場所

〒113-8603 東京都文京千駄木一丁目1番5号
電話( 03 ) 3822 - 2131

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科							有
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科		2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		<input type="radio"/>		11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科		8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科		3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
口腔科(周術期)							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	消化器・肝臓内科	3	内分泌代謝内科	4	老年内科	5	漢方内科
6	形成外科	7	リハビリテーション科	8	病理診断科	9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
27	0	0	0	850	877	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	709	14.7	723.7
歯科医師	2	0.3	2.3
薬剤師	84	0	84
保健師	0	0	0
助産師	31	0	31
看護師	1078	2.7	1080.7
准看護師	1	0	1
歯科衛生士	3	1	4
管理栄養士	13	0	13

職種	員数
看護補助者	85
理学療法士	25
作業療法士	8
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	44
栄養士	2
歯科技工士	0
診療放射線技師	70

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	78.4
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	0	
その他の技術員	19.6	
事務職員	216.4	
その他の職員	35.8	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	50	眼科専門医	12
外科専門医	57	耳鼻咽喉科専門医	10
精神科専門医	7	放射線科専門医	16
小児科専門医	14	脳神経外科専門医	18
皮膚科専門医	13	整形外科専門医	12
泌尿器科専門医	10	麻酔科専門医	12
産婦人科専門医	19	救急科専門医	15
		合計	265

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 汲田 伸一郎 ) 任命年月日 平成 29 年 2 月 1 日

医療安全管理部部长、医療安全管理責任者、医療安全管理委員会委員長  
 平成26年4月1日から平成29年1月31日

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	702 人	0 人	702 人
1日当たり平均外来患者数	1699.1 人	22.5 人	1721.6 人
1日当たり平均調剤数		1649.5	剤
必要医師数		172.7	人

必要歯科医師数	1.1	人
必要薬剤師数	24	人
必要(准)看護師数	408.3	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の

#### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数			
集中治療室	4618.17 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	96 床	有	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	192.558	m <sup>2</sup>	病床数	11 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	24.56	m <sup>2</sup>		
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	496.42 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体前処理分注機、免疫化学分析装置、血液凝固測定装置		
細菌検査室	175.85 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	血液培養装置、微生物分類同定分析装置、安全キャビネット等		
病理検査室	468.77 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	安全キャビネット、凍結切片作成装置、低温フリーザー等		
病理解剖室	80.1 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	感染対策解剖台、肉眼撮影装置等、ホルマリン送液装置等		
研究室	1503.34 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備)	病理組織学標本作製装置、細胞培養装置、オートクレーブ等		
講義室	886.35 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	4 室	収容定員	620 人
図書室	1,323.70 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	6 室	蔵書数	60,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	102.8	%	逆紹介率	60.7	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		20,499 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		14,932 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,793 人		
	D: 初診の患者の数		24,614 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

## 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
長島 隆	東洋大学	○	利害関係のない学識経験者	無	1
小泉 博明	文京学院大学		利害関係のない学識経験者	無	1
櫻田 晋太郎	弁護士		利害関係のない学識経験者	無	1
豊田 郁子	NPO法人「架け橋」		利害関係のない医療従事者以外の者	無	2
近藤 幸尋	日本医科大学付属病院		副院長・泌尿器科部長	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

## 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
学校法人のホームページにて公表	



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 バージャー病 (従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類3度または4度のものに限る。)	0人
術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん (ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	9人
治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均衡灌流療法 子宮頸がん (術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に応かつ手術が不能なものに限る。)	0人
テネクテプラゼ静脈内投与療法 脳梗塞 (発症から四・五時間以内のものに限る。)	1人
自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症 (難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類合計数	5
扱い患者数の合計(人)	10

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援人工関節置換術	取扱患者数	93人
当該医療技術の概要 手術支援人工関節ロボットを使い人工膝関節置換術・人工股関節置換術を行っている。本支援ロボットを使用することで従来より安全で正確に手術ができる。			
医療技術名	MRIガイド子宮腔内照射	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 子宮がんの放射線治療で行われる腔内照射に、子宮がんの範囲を最も描出しやすいMRIをアプリケーション挿入後に撮像し治療計算に用いることで、がんへの投与線量を低下させることなく正常組織の線量低減を期待することができる。			
医療技術名	経皮的中隔心筋焼灼術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 薬剤抵抗性の左室内圧較差を認める閉塞性肥大型心筋症に対する経カテーテル的治療法			
医療技術名	低心機能症例における難治性心室性不整脈に対するカテーテルアブレーション	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 電氣的除細動抵抗性の致死性心室性不整脈Electrical Storm 状態における緊急・準緊急カテーテルアブレーション			
医療技術名	胃ESDにおける内視鏡的手縫い縫合術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 軟性内視鏡用持針器を用いた管腔内手縫い縫合法。内視鏡治療後出血予防の他、様々な疾患に応用できる。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	5
取扱い患者数の合計(人)	118人



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	68
2	筋萎縮性側索硬化症	10	57	特発性拡張型心筋症	38
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	67
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	6	60	再生不良性貧血	35
6	パーキンソン病	122	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	1	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	7
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	61
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トウス病	4	65	原発性免疫不全症候群	11
11	重症筋無力症	72	66	IgA腎症	36
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	41
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	68	68	黄色靭帯骨化症	2
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	14	69	後縦靭帯骨化症	12
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	6
16	クロー・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	23
17	多系統萎縮症	15	72	下垂体性ADH分泌異常症	23
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	24	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	22
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	18
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	27	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	53
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	195
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	3
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	26	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	77
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	20
31	ベスレムミオパチー	3	86	肺動脈性肺高血圧症	13
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンペル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	31	89	リンパ管筋腫症	3
35	天疱瘡	7	90	網膜色素変性症	16
36	表皮水疱症		91	パッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	6	92	特発性門脈圧亢進症	3
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	34	93	原発性胆汁性肝硬変	37
39	中毒性表皮壊死症	11	94	原発性硬化性胆管炎	5
40	高安動脈炎	16	95	自己免疫性肝炎	30
41	巨細胞性動脈炎	7	96	クローン病	67
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	186
43	顕微鏡的多発血管炎	22	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	19	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	24	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	14	101	腸管神経節細胞減少症	
47	バージャー病	8	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	6	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	145	104	コストロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	137	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	223	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	41	107	全身型若年性特発性関節炎	18
53	シェーグレン症候群	50	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	11	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

NO	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	3
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	11
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	14
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	1	174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ビクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鯉耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠伸てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	1
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	1

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

NO	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	3	260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	3
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モフト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	56	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	10
224	紫斑病性腎炎	7	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	2
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メープルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	2
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膝炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	16
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	48

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

NO	疾患名	患者数	疾患名	患者数
307	カナバン病	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん	321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症	324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症	325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症	326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
316	カルニチン回路異常症	328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症	329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症	330	先天性気管狭窄症	
		331	特発性多中心性キャッスルマン病	9

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	331
合計患者数(人)	2663

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 救急医療管理加算	・ ハイリスク妊娠管理加算
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ ハイリスク分娩管理加算
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ 後発医薬品使用体制加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 病棟薬剤業務実施加算
・ 特定機能病院入院基本料	・ データ提出加算
・ 超急性期脳卒中加算	・ 入退院支援加算
・ 診療録管理体制加算	・ 認知症ケア加算
・ 医師事務作業補助体制加算	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 急性期看護補助体制加算	・ 精神疾患診療体制加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 無菌治療室管理加算	・ 排尿自立支援加算
放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・ 地域医療体制確保加算
・ 緩和ケア診療加算	・ 救命救急入院料1
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 救命救急入院料4
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 特定集中治療室管理料
・ 栄養サポートチーム加算	・ ハイケアユニット入院医療管理料
・ 医療安全対策加算	・ 新生児特定集中治療室管理料
・ 感染防止対策加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 抗菌薬適正使用支援加算	・ 小児入院医療管理料
・ 摂食障害入院医療管理加算	・ 短期滞在手術等基本料1
・ 感染防止対策加算対策向上加算、指導強化加算	
・ 患者サポート体制充実加算	
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 外来栄養食事指導料	・ がん治療連携計画策定料
・ 遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	・ 排尿自立指導料
・ 糖尿病合併症管理料	・ ハイリスク妊産婦共同管理料
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ ハイリスク妊産婦連携指導料1
・ がん患者指導管理料	・ ハイリスク妊産婦連携指導料2
・ 外来緩和ケア管理料	・ こころの連携指導料
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 肝炎インターフェロン治療計画料
・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 薬剤管理指導料
・ 乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・ 検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ 医療機器安全管理料1
・ 院内トリアージ実施料	・ 医療機器安全管理料2
・ 腎代替療法指導管理料	・ 医療機器安全管理料(歯科)
・ 一般不妊治療管理料	・ 精神科退院時共同指導料
・ 生殖補助医療管理料	・ 総合医療管理加算(歯科疾患管理料)
・ 救急搬送看護体制加算	・ 歯科治療時医療管理料
・ 外来放射線照射診療料	・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・ 外来腫瘍化学療法診療料	・ 持続血糖測定器加算

・ ニコチン依存症管理料	・ 重症患者搬送加算
・ 遺伝学的検査	・ 長期継続頭蓋内脳波検査
・ 骨髄微小残存病変量測定	・ 単線維筋電図
・ 染色体検査の注2に規定する基準	・ 神経学的検査
・ BRCA1/2遺伝子検査	・ 補聴器適合検査
・ がんゲノムプロファイリング検査	・ ロービジョン検査判断料
・ 先天性代謝異常症検査	・ コンタクトレンズ検査料
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ 小児食物アレルギー負荷検査
・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・ 内服・点滴誘発試験
・ 口腔細菌定量検査	・ センチネルリンパ節生検(片側)
・ 口腔粘膜処置	・ 経気管支凍結生検法
・ 検体検査管理加算(I)	・ 画像診断管理加算1
・ 検体検査管理加算(IV)	・ 画像診断管理加算2
・ 国際標準検査管理加算	・ 画像診断管理加算3
・ 遺伝カウンセリング加算	・ がん患者リハビリテーション料
・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・ 遠隔画像診断
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ CT撮影及びMRI撮影
・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・ 冠動脈CT撮影加算
・ 胎児心エコー法	・ 血流予備量比コンピューター断層撮影
・ ヘッドアップティルト試験	・ 外傷全身CT加算

<ul style="list-style-type: none"> <li>皮下連続式グルコース測定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心臓MRI撮影加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>小児鎮静下MRI撮影加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳房MRI撮影加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>頭部MRI撮影加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>全身MRI撮影加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工腎臓</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>抗悪性腫瘍剤処方管理加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入期加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>外来化学療法加算1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>無菌製剤処理料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>心大血管疾患リハビリテーション料(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>椎間版内酵素注入療法</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>脳血管疾患等リハビリテーション料(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>運動器リハビリテーション料(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内皮移植加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸器リハビリテーション料(I)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>角結膜悪性腫瘍切除手術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>集団コミュニケーション療法料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>療養生活継続支援加算(通院・在宅精神療法)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>救急患者精神科継続支援料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻鏡手術)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療保護入院等診療料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経外耳道的内視鏡下鼓室形成術</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>硬膜外自家血注入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>口腔粘膜処置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>CAD/CAM冠</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)、鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>皮膚移植術(死体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鏡視下喉頭悪性腫瘍手術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの。))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経カテーテル大動脈弁置換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡的逆流防止粘膜切除術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経皮的僧帽弁クリップ術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>磁気ナビゲーション加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経皮的中隔心筋焼灼術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡的小腸ポリープ切除術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下仙骨腔固定術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大動脈バルーンパンピング法(IABP法)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>内視鏡下筋層切開術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助人工心臓</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バルーン閉塞下経静脈的塞栓術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸血管理料 I</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸血適正使用加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線治療専任加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下子宮瘢痕修復術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来放射線治療加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高エネルギー放射線治療</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回線量増加加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>強度変調放射線治療(IMRT)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>生体部分肝移植術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>画像誘導放射線治療加算 (IGRT)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体外照射呼吸性移動対策加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下膵頭腫瘍切除術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定位放射線治療</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>膀胱水圧拡張術</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下腭頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工尿道括約筋植込・置換術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下肝切除術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠経部切開によるもの)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術に対する乳房切除術)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体外式膜型人工肺管理料</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定位放射線治療呼吸性移動対策加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>悪性腫瘍病理組織標本加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>画像誘導密封小線源治療加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウン・ブリッジ維持管理料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病理診断管理加算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>胃瘻造設時嚥下機能評価加算</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>歯周組織再生誘導手術</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>レーザー機器加算の施設基準</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>麻酔管理料(Ⅰ)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>麻酔管理料(Ⅱ)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>周術期薬剤管理加算</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>連携充実加算</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>連携充実加算</li> </ul>	



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
自己免疫性自律神経節障害の「多様性」に関する多角的研究	中根 俊成	脳神経内科	2,990,000	補委 文部科学省
体内微生物の脳動脈瘤の発生・破裂への影響の解明と新しい予防医療の開発	森田 明夫	脳神経外科	5,720,000	補委 文部科学省
嚥下障害に対する新たな臨床展開－食道刺激と高解像度インピーダンスマンOMETRY-	青柳 陽一郎	リハビリテーション科	11,830,000	補委 文部科学省
新規アディポネクチン受容体結合タンパク質の機能解析と生活習慣病治療への応用	岩部 真人	糖尿病・内分泌代謝内科	7,670,000	補委 文部科学省
ボルテゾミブを用いた、Rhoを介した肺血管透過性亢進のメカニズムと治療法の解明	柏田 建	呼吸器内科	520,000	補委 文部科学省
DNA修復機構を標的とした難治性急性骨髄性白血病治療の開発	脇田 知志	血液内科	1,040,000	補委 文部科学省
閉塞性大腸癌における自己拡張型金属ステントの腫瘍学的安全性の評価	高橋 吾郎	消化器外科	390,000	補委 文部科学省
外傷患者に対するトラネキサム酸の病院前投与の有効性と安全性に関する研究	中江 竜太	救命救急科	650,000	補委 文部科学省
ProteomeとLipidomeを組み合わせたアミロイド沈着機序の解明	堂本 裕加子	病理診断科	910,000	補委 文部科学省
PPI抵抗性逆流性食道炎を含めた逆流性食道炎発症に及ぼす唾液分泌の影響	岩切 勝彦	消化器・肝臓内科	1,040,000	補委 文部科学省
肺癌の発癌・転移に関わる肺Microbiomeの同定と免疫療法との関連性の解明	宮永 晃彦	呼吸器内科	1,430,000	補委 文部科学省
多様なリンパ球増殖性肺病変の局所リンパ球のプロファイリングとバイオマーカー開発	寺崎 泰弘	病理部	1,170,000	補委 文部科学省
シングルセル解析による有棘細胞がんの腫瘍内不均一性の起源の探索	佐伯 秀久	皮膚科	1,430,000	補委 文部科学省
全身性强皮症に伴う心筋病変の形成における心筋指向性単球の解析	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	1,560,000	補委 文部科学省
甲状腺微小乳頭癌の個別的管理のためのバイオマーカー探索と患者報告アウトカム研究	杉谷 巖	内分泌外科	1,430,000	補委 文部科学省
Liquid biopsy技術を加えた新たな胃癌進行度分類診断の研究	金沢 義一	消化器外科	1,170,000	補委 文部科学省
血中の腫瘍由来関連核酸検出による消化管間質腫瘍の新規治療戦略	萩原 信敏	消化器外科	1,300,000	補委 文部科学省
小児拡張型心筋症に対する肺動脈絞扼術の有効性の検討	佐々木 孝	心臓血管外科	390,000	補委 文部科学省
理想的な血管再生を誘導する多層性動脈グラフトの創製	太良 修平	循環器内科	1,430,000	補委 文部科学省
睡眠障害は疼痛を増悪させるか？睡眠が疼痛制御に及ぼす分子機構解明と治療介入の検討	間瀬 大司	外科系集中治療科	1,170,000	補委 文部科学省
心停止後意識障害における低侵襲的細胞医薬治療の有効性評価：患者社会復帰を目指して	横堀 将司	救命救急科	650,000	補委 文部科学省
出血性ショック初期輸液としてのヘモグロビン-アルブミン クラスターの蘇生効果	増野 智彦	救命救急科	1,430,000	補委 文部科学省
新規流体チップデバイスによる尿路生殖器癌の循環腫瘍細胞捕捉に関する研究	近藤 幸尋	泌尿器科	1,170,000	補委 文部科学省
リキッドバイオプシーを用いた卵巣チョコレート嚢胞癌化に対する早期診断法の開発	米山 剛一	女性診療科・産科	910,000	補委 文部科学省
PRMT5による新たなクロイド幹細胞制御機構の解明と新治療薬開発への挑戦	土佐 眞美子	形成外科・再建外科・美容外科	910,000	補委 文部科学省
薬物療法が与える免疫原性細胞死の評価	笠原 寿郎	化学療法科	1,170,000	補委 文部科学省
PETを用いたうつ病のECT後の効果維持に関する予測因子の解明	野上 毅	精神神経科	1,300,000	補委 文部科学省
乳房デジタルトモシンセシスによる新しい乳癌画像診断法の研究	谷 瞳	放射線科	520,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
逐次近似法を用いて上部消化管造影検査での早期胃癌の描出能を向上する	城 正樹	放射線科	520,000	補委 文部科学省
肺線維化病態における血漿中cell free DNAの探索研究	猪俣 稔	呼吸器内科	1,560,000	補委 文部科学省
アポトーシス調整因子を標的とした非小細胞肺癌の新規治療法の開発～根治を目指して～	中道 真仁	呼吸器内科	1,170,000	補委 文部科学省
悪性胸膜中皮腫における新規治療戦略の探索	中山 幸治	呼吸器内科	520,000	補委 文部科学省
慢性腎臓病患者の血管合併症に対する新規治療薬の検証	谷 崇	腎臓内科	1,300,000	補委 文部科学省
人工知能と集中治療患者情報システムを用いた革新的な人工呼吸器離脱戦略	五十嵐 豊	救命救急科	1,560,000	補委 文部科学省
新たな適応による出血性ショックに対するキサンチンオキシダーゼ阻害薬治療の確立	瀧口 徹	救命救急科	1,170,000	補委 文部科学省
日本人に向けた嗅覚トレーニングの開発	吉野 綾穂	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	520,000	補委 文部科学省
PPARを用いた緑内障における線維柱帯切除術後線維化抑制	白鳥 宙	眼科	1,430,000	補委 文部科学省
急性期脳卒中患者に対する栄養療法の有用性に関する研究	鈴木 健太郎	脳卒中集中治療科	260,000	補委 文部科学省
新規ヒストン修飾解析手法を用いた白色脂肪細胞分化過程のエピゲノム変化の解析	稲垣 恭子	糖尿病・内分泌代謝内科	1,170,000	補委 文部科学省
本邦における脳梗塞関連遺伝子座と臨床的特徴に関する検討	下山 隆	脳神経内科	1,300,000	補委 文部科学省
川崎病冠動脈瘤に対する脂肪由来間葉系幹細胞(ADSC)を用いた細胞療法の開発	植田 高弘	小児科	1,430,000	補委 文部科学省
成人川崎病既往者の早期動脈硬化発症リスクの解明	深澤 隆治	小児科	1,300,000	補委 文部科学省
人工知能を用いた肥大型心筋症患者の収縮能低下および拡張相移行への予測	高野 仁司	循環器内科	1,040,000	補委 文部科学省
エキシマレーザーの色素細胞活性化機序の解明	船坂 陽子	皮膚科	780,000	補委 文部科学省
神経体液因子を標的とした術中心筋保護法の開発	山田 直輝	心臓血管外科	1,820,000	補委 文部科学省
microRNAを介した全身麻酔作用機序の検討	石川 真士	麻酔科・ペインクリニック	1,300,000	補委 文部科学省
麻酔薬による癌細胞生理への影響の検討	岩崎 雅江	外科系集中治療科	1,170,000	補委 文部科学省
体外式膜型人工肺の出血をおこさない新規抗凝固戦略:XII因子阻害薬とコーティング	梅井 菜央	外科系集中治療科	1,690,000	補委 文部科学省
南海トラフ地震における災害医療対応シミュレーション・システムの開発	布施 明	救命救急科	1,300,000	補委 文部科学省
分子生体制御学的・行動解析学的アプローチによる内耳性難聴の発症メカニズムの解明	松延 毅	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,690,000	補委 文部科学省
硝子体手術に伴う網膜酸化ストレス傷害に対する水素含有眼内灌流液の効果	高橋 浩	眼科	1,430,000	補委 文部科学省
生態レドックス評価による早期NASH病態の解明と非侵襲的診断法の開発	中田 亮輔	消化器外科	1,820,000	補委 文部科学省
2型糖尿病発症における膵β細胞の脂肪適応と脂肪毒性についての栄養生理学的検証	浅井 明	糖尿病・内分泌代謝内科	1,430,000	補委 文部科学省
心筋症における電気解剖学的マッピングを用いた心筋生検についての検討	林 洋史	循環器内科	2,210,000	補委 文部科学省
ヒト正常細胞におけるEML4-ALKの生物学的役割の検討	松本 優	化学療法科	1,430,000	補委 文部科学省
網羅的遺伝子解析を用いた強皮症特異的単球master regulatorの同定	井関 ゆう子	リウマチ・膠原病内科	1,950,000	補委 文部科学省
出血性ショック後肺障害発症メカニズムにおけるmicroRNAの役割	倉橋 和嘉子	救命救急科	1,040,000	補委 文部科学省
血中DNA分解酵素活性を用いた絞扼性腸閉塞の診断	岩井 拓磨	内視鏡センター	780,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ARDS動物モデルにおける経肺熱希釈法を用いた新たなモニタリング法の検討	遠藤 雄介	救急救命科	910,000	補委	文部科学省
細胞外miR-21を標的とした変形性関節症に対する疾患修飾性鎮痛薬の検討	星川 直哉	整形外科・リウマチ外科	1,430,000	補委	文部科学省
Whole-clinical dataに基づくホワイトボックス的な医療AIの検証	赤塚 純	泌尿器科	2,990,000	補委	文部科学省
診療参加型実習、EPOC2に対応する医学生、研修医の外科手技自習プログラムの検討	清水 哲也	消化器外科	390,000	補委	文部科学省
2型糖尿病の新規病理仮説:膵β細胞でのCD36発現異常とインスリン分泌不全	長尾 元嗣	糖尿病・内分泌代謝内科	1,950,000	補委	文部科学省
乳癌の術前内分泌療法によるレスポンスガイドセラピーの臨床導入へ向けた研究	武井 寛幸	乳腺科	1,430,000	補委	文部科学省
新型高浄環境技術(CUSP)の高齢者総合医療への応用	安武 正弘	総合診療科	650,000	補委	文部科学省
虚血性心疾患に対する半定量的心筋血流SPECTでの心筋血流予備能の予測法の開発	福嶋 善光	放射線科	2,730,000	補委	文部科学省
放射線治療による肺機能低下を換気血流SPECT/CTとIMRTで低減可能か?	前林 勝也	放射線治療科	1,820,000	補委	文部科学省
バイオインフォマティクスを用いた非コードDNA解析による若年突然死の発症機序解明	村田 広茂	循環器内科	3,250,000	補委	文部科学省
インシリコモデルとテンソル心電図解析による早期再分極症候群の不整脈リスク分析	岩崎 雄樹	循環器内科	2,340,000	補委	文部科学省
抗MDA5抗体陽性間質性肺疾患の病態に関わる細胞内シグナル伝達経路探索	五野 貴久	リウマチ・膠原病内科	1,950,000	補委	文部科学省
間葉系組織からの骨芽細胞分化に着目した強皮症石灰沈着症の機序解明と治療標的探索	白井 悠一郎	リウマチ・膠原病内科	1,300,000	補委	文部科学省
循環DNA, DNaseバランスからみた術後感染症およびその腫瘍学的予後悪化予測	松田 明久	消化器外科	910,000	補委	文部科学省
細胞外小胞を用いた空間的・時間的不均一性の解明	山田 岳史	消化器外科	1,690,000	補委	文部科学省
脾臓の抗腫瘍作用メカニズムの解明	吉田 寛	消化器外科	1,820,000	補委	文部科学省
消化管神経内分泌腫瘍の分子生物学的解析と新規治療薬の開発	進士 誠一	消化器外科	1,560,000	補委	文部科学省
多血小板血漿と生分解性徐放化ゲルを用いた新しい心筋再生治療の開発	村田 智洋	心臓血管外科	1,040,000	補委	文部科学省
心外膜植込み型プラットフォームを利用した心臓再生医療の確立	宮城 泰雄	医療安全管理部	1,950,000	補委	文部科学省
血管内腔側から徐々に吸収される階層構造を持つ生体吸収性動脈グラフトの開発	宮地 秀樹	心臓血管集中治療科	1,560,000	補委	文部科学省
機械学習によるCOVID-19のクラスタリングと個別化医療に向けた探索的研究	三宅 のどか	救命救急科	1,430,000	補委	文部科学省
Egr-1のハプロ不全による腎虚血再灌流障害に対する腎保護作用に関する研究	新井 正徳	救命救急科	1,040,000	補委	文部科学省
開放骨折への即時骨接合+局所抗生剤高濃度持続投与法の感染率低下、遊離骨片温存作用	佐藤 陽介	救命救急科	3,640,000	補委	文部科学省
ケモカイン受容体デュアル制御分子に着目した血管性認知症に対する疾患修飾薬の確立	須田 智	脳卒中集中治療科	2,470,000	補委	文部科学省
脳動脈瘤の臨床表現型に着目したRNF213の網羅的解析	村井 保夫	脳神経外科	1,040,000	補委	文部科学省
自然免疫を標的とした新たな閉経後骨粗鬆症メカニズム解析と発症予防・治療薬の開発	大内 望	女性診療科・産科	1,170,000	補委	文部科学省
慢性子宮内膜炎におけるエピジェネティック変容とプロゲステロン不応機序の解明	桑原 慶充	女性診療科・産科	1,040,000	補委	文部科学省
新たな視点から調節卵巣刺激への反応性を予測する血中オステオポンチンの測定意義	中尾 仁彦	女性診療科・産科	1,300,000	補委	文部科学省
新規治療法開発を指向した子宮内膜症におけるアラミンとその受容体の免疫学的解析	池田 真利子	女性診療科・産科	910,000	補委	文部科学省
ヒトリンパ管内皮細胞に対する定圧刺激の影響と作用機序の解明	高田 弘弥	形成外科・再建外科・美容外科	1,690,000	補委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
骨格筋他動的伸長刺激による筋力増強と栄養因子に関する分子生物学的検討	池田 聡	リハビリテーション科	1,560,000	補委	文部科学省
画像診断と人工知能を用いた循環腫瘍細胞同定法の開発	武田 幸樹	消化器外科	1,170,000	補委	文部科学省
抗腫瘍免疫応答による早期発症大腸癌・腺腫のリスクの層別化	秋元 直彦	消化器・肝臓内科	1,820,000	補委	文部科学省
TP53変異陽性急性骨髄性白血病に対するMCL-1制御を介した新規治療法の開拓	阪口 正洋	血液内科	1,300,000	補委	文部科学省
腎虚血再灌流障害に対するセボフルランのMicroRNA変化を介した保護効果の証明	山本 真記子	麻酔科・ペインクリニック	3,510,000	補委	文部科学省
甲状腺機能障害に合併する頭蓋内血管狭窄の遺伝子変異と病態解析	亦野 文宏	脳神経外科	1,040,000	補委	文部科学省
グラニューライシンは原因不明不妊症のマーカーとなりうるか？流産防止法確立に向けて	市川 智子	女性診療科・産科	1,300,000	補委	文部科学省
免疫学的アプローチによる早産におけるアラミンの機能解明	加藤 雅彦	女性診療科・産科	1,300,000	補委	文部科学省
異常瘢痕形成メカニズム解明と予防法・治療法開発 一日常生活動作の解析をもとに	土肥 輝之	形成外科・再建外科・美容外科	2,860,000	補委	文部科学省
サルコペニアに着目した急性期脳卒中に関する前方視的研究	石山 大介	リハビリテーション科	1,560,000	補委	文部科学省
くも膜下出血はなぜ日本人に多いか？：脳血管障害をきたす体内細菌叢の国際間比較研究	森田 明夫	脳神経外科	8,580,000	補委	文部科学省
『新しい生活様式』に即した環境因子の変化に伴う熱中症発症因子の検討	横堀 将司	救命救急科	18,372,000	補委	厚生労働省
自己免疫性自律神経障害の全国調査、診断基準策定、国際的な総意形成	中根 俊成	脳神経内科	3,500,000	補委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	伊藤 保彦	小児科	200,000	補委	厚生労働省
原発性高脂血症に関する調査研究	稲垣 恭子	糖尿病・内分泌代謝内科	200,000	補委	厚生労働省
血液凝固異常症等に関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	800,000	補委	厚生労働省
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン・疾患レジストリに関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	200,000	補委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	200,000	補委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	五野 貴久	リウマチ・膠原病内科	200,000	補委	厚生労働省
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	田原 重志	脳神経外科	500,000	補委	厚生労働省
移行期JIAを中心としたリウマチ性疾患における患者の層別化に基づいた生物学的製剤棟の適正仕様に資する研究	檜崎 秀彦	小児科	80,000	補委	厚生労働省
先天性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	山口 博樹	血液内科	500,000	補委	厚生労働省
脳死下、心停止後の臓器・組織提供における効率的な連携体制の構築に資する研究	横堀 将司	救命救急科	400,000	補委	厚生労働省
地域医療構想を踏まえた救急医療体制の充実に資する研究	横堀 将司	救命救急科	180,000	補委	厚生労働省
現在の脳死判定基準で脳死判定が困難な事例における脳死判定代替法の確立に向けた研究	横堀 将司	救命救急科	200,000	補委	厚生労働省
末梢型肺がんに対する光線力学的治療に関する医師主導治験	白田 実男	呼吸器外科	9,325,702	補委	日本医療研究開発機構
周期的圧刺激によって制御される血管新生のシグナル伝達機構の解明-非接触超音波を用いた創傷治療法の開発を目指して-	小川 令	形成外科・再建外科・美容外科	83,058,550	補委	日本医療研究開発機構
統合レジストリによる多発性筋炎／皮膚筋炎関連間質性肺疾患の個別化医療基盤の構築	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	11,700,000	補委	日本医療研究開発機構
在宅創傷治療用ウェアラブル振動に関する研究開発	高田 弘弥	形成外科・再建外科・美容外科	26,000,000	補委	日本医療研究開発機構
ピロリ菌除菌後健康人を対象とした世界初エビゲノム発がんリスク診断の実用化	河越 哲郎	消化器・肝臓内科	520,000	補委	日本医療研究開発機構



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
多施設連携プラットフォーム(MABB)を基盤にした各種認知症性疾患に対する日本発の包括的な診断・層別化バイオマーカーシステムの確立	舘野 周	精神神経科	6,110,000	補 委	日本医療研究開発機構
重症化ゼロを目指したスギ・ヒノキ花粉症に対するアレルゲン免疫療法の開発	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,950,000	補 委	日本医療研究開発機構
肥大型心筋症患者における診療の実態調査および突然死／拡張相への移行に関する新規予測プログラムの開発とその検証	高野 仁司	循環器内科	390,000	補 委	日本医療研究開発機構
患者レジストリJapan PH Registryを活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗IL-6受容体抗体適応拡大のための医師主導治験	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	650,000	補 委	日本医療研究開発機構
患者レジストリJapan PH Registryを活用した肺動脈性肺高血圧症のアンメットメディカルニーズに対するエビデンス創出研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	520,000	補 委	日本医療研究開発機構
コンテンツ総合監修及び管理運用制度・指針の設計・コンサルティング業務	横堀 将司	救命救急科	10,652,400	補 委	日本医療研究開発機構
一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する標準化学療法法の確立を目指した第2相臨床試験	植田 高弘	小児科	130,000	補 委	日本医療研究開発機構
川崎病冠動脈瘤発症予防のための急性期治療難治例予測診断法開発に直結するエビデンス創出研究	渡邊 誠	小児科	130,000	補 委	日本医療研究開発機構
非 HIV 免疫再構築症候群の疾患概念確立とバイオマーカーの研究開発	久保田 馨	呼吸器内科	1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構
初発中枢神経原発胚細胞腫瘍に対する化学療法併用放射線治療の低侵襲化に関する研究開発	前林 勝也	放射線治療科	260,000	補 委	日本医療研究開発機構
全身性強皮症に伴う皮膚潰瘍に対する自家骨髄単核球移植を用いた血管再生療法に関する研究開発	高木 元	総合診療科	973,397	補 委	日本医療研究開発機構
ベーチェット病の病態解明および治療法開発を目的とした全国レジストリの構築	岳野 光洋	リウマチ・膠原病内科	572,000	補 委	日本医療研究開発機構
ロメジリン塩酸塩によるCADASIL患者に対する脳虚血イベント再発抑制	木村 和美	脳神経内科	520,000	補 委	日本医療研究開発機構
小児特有の脳腫瘍に対する標準治療確立のための全国多施設共同研究	前林 勝也	放射線治療科	130,000	補 委	日本医療研究開発機構
食道アカラシアの前駆状態とされる食道胃接合部通過障害に対するアコチアミドの有効性と安全性を検討する第II相医師主導治験	岩切 勝彦	消化器・肝臓内科	7,497,100	補 委	日本医療研究開発機構
大規模疾患コホート・アカデミア連携を基盤とするオミックス解析・サーベイランス体制の整備による新興感染症重症化リスク因子の探索	山口 博樹	血液内科	3,120,000	補 委	日本医療研究開発機構
病院を家庭に、家庭で炎症コントロール	岩部 真人	糖尿病・内分泌代謝内科	650,000	補 委	日本医療研究開発機構
利活用を目的とした日本疾患バイオバンクの運営・管理	山口 博樹	血液内科	5,500,000	補 委	日本医療研究開発機構

計136件

(注) 1

国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2

「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入

3

「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
1	Goto O, Koizumi E, Higuchi K, et al.	内視鏡センター	Endoscopic full-thickness resection with double-layer closure by endoscopic hand suturing for a gastric subepithelial tumor	Endoscopy	2022年12月	第54巻 PE964-E965	Case report
2	Nakagome S, Koizumi E, Goto O, et al.	消化器・肝臓内科	A successful treatment case of refractory hemorrhagic ulcer with eosinophilic gastritis by endoscopic hand suturing	DEN Open	2023年1月	第9巻 Pe207	Case report
3	Usuda J, Inoue T, Sonokawa T	呼吸器外科	New Technique for Introducing a Surgical Stapler during Robot-Assisted Lobectomy for Lung Cancer	J Nippon Med	2022年5月	第35巻 P257-264	Original Article
4	Nakaza M, Matsumoto M, Sekine T	呼吸器外科	Dual-VENC 4D Flow MRI Can Detect Abnormal Blood Flow in the Left Atrium That Potentially Causes Thrombosis Formation after Left Upper Lobectomy	Magn Reson Med	2022年7月	第21巻 P433-443	Original Article
5	Sonokawa T, Obi N, Usuda J	呼吸器外科	Development of a new minimally invasive phototherapy for lung cancer using antibody-toxin conjugate	Thorac Cancer	2023年3月	第14巻 P645-653	Original Article
6	Mikami E, Nakamichi S, Misawa K	呼吸器外科	Successful Treatment with Definitive Concurrent Chemoradiotherapy Followed by Durvalumab Maintenance Therapy in a Patient with Tracheal Adenoid Cystic Carcinoma: A Case Report	Internal Med	2023年1月	1142-22	Review
7	Gono T, Masui K, Sato S et al.	リウマチ・膠原病内科	Mortality Risk Stratification Using Cluster Analysis in Patients With Myositis-Associated Interstitial Lung Disease Receiving Initial Triple-Combination Therapy	Front Med (Lausanne)	2022年5月 (オンライン)	9:883699	Original Article
8	Kuwana M, Wakasugi N, Furuya T et al.	リウマチ・膠原病内科	Tacrolimus in Patients With Interstitial Pneumonia Associated With Polymyositis or Dermatomyositis: Interim Report of Postmarketing Surveillance in Japan	J Rheumatol	2022年7月	第49巻 P707-718	Original Article
9	Fukue R, Okazaki Y, Gono T et al.	リウマチ・膠原病内科	Abatacept downregulates Fc $\gamma$ receptor I on circulating monocytes: a potential therapeutic mechanism in patients with rheumatoid arthritis	Arthritis Res Ther	2022年8月	第24巻 195	Original Article
10	Yoshida A, Gono T, Okazaki Y et al.	リウマチ・膠原病内科	Severe digital ischemia as an unrecognized manifestation in patients with antisynthetase autoantibodies: Case series and systematic literature review	J Scleroderm a Relat Disord	2022年10月	第7巻 P204-216	Others
11	Kuwana M, Bando M, Kawahito Y et al.	リウマチ・膠原病内科	Identification and management of connective tissue disease-associated interstitial lung disease: evidence-based Japanese consensus statements	Expert Rev Respir Med	2023年1月	第17巻 P71-80	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
12	Kuwana M, Abe K, Kinoshita H et al.	リウマチ・膠原病内科	Efficacy, safety, and pharmacokinetics of inhaled treprostinil in Japanese patients with pulmonary arterial hypertension	Pulm Circ	2023年2月 (オンライン)	13(1):e12198	Original Article
13	Yoshida A, Kim M, Kuwana M et al.	リウマチ・膠原病内科	Impaired physical function in patients with idiopathic inflammatory myopathies: results from the multicentre COVAD patient-reported e-survey	Rheumatology (Oxford)	2023年3月	第62巻 P1204-1215	Original Article
14	Kuwana M, Ito T, Kowata S, Hatta Y et al.	リウマチ・膠原病内科	Fostamatinib for the treatment of Japanese patients with primary immune thrombocytopenia: A phase 3, placebo-controlled, double-blind, parallel-group study	Br J Haematol	2023年3月	第200巻 P802-811	Original Article
15	Kuwana M, Tamura N, Yasuda S et al.	リウマチ・膠原病内科	Cost-effectiveness analyses of biologic and targeted synthetic disease-modifying anti-rheumatic diseases in patients with rheumatoid arthritis: Three approaches with a cohort simulation and real-world data	Mod Rheumatol	2023年3月	第33巻 P302-311	Original Article
16	Kawabata Ikuno	遺伝診療科	Outcomes of 8 Years of Noninvasive Prenatal Testing at Nippon Medical School Hospital	Journal of Nippon Medical School	2022年10月	第89巻 第5号 P520-525	Original Article
17	Kasamatsu Momoko	眼科	Prophylactic Instillation of Hydrogen-Rich Water Decreases Corneal Inflammation and Promotes Wound Healing by Activating Antioxidant Activity in a Rat Alkali Burn Model.	J. Mol. S	2022年9月	2022 Aug 29;23(17):9774.	Original Article
18	Shiratori Naka	眼科	Statistical Analysis of Factors Affecting Surgically Induced Astigmatism Following Trabeculectomy.	Clinical ophthalmology	2022年10月	2022 Nov 21;16:3833-3839.	Original Article
19	Suga R, Igarashi Y, Norii T, et.al.	救命救急科	Characteristics and Outcomes of Emergency Transferred Patients with Foreign Body Airway Obstruction in Tokyo, Japan	Prehosp Disaster Med	2023年3月	第20巻 P1-6	Original Article
20	Rikiya Kamenno, Yutaka Igarashi, Kunio Hirai, et.al.	救命救急科	Letter to the Editor: A Compact and Lightweight X-Ray Unit in a Mountain Clinic	High Alt Med Biol	2022年12月	23巻4号 P377-379.	Letter
21	Ryuta Nakae, Yasuo Murai, Takeshi Wada et.al.	救命救急科	Hyperfibrinolysis and fibrinolysis shutdown in patients with traumatic brain injury	Sci Rep	2022年11月	12巻1号 :19107.	Original Article
22	Yutaka Igarashi, Kensuke Suzuki, Tatsuya Norii et.al.	救命救急科	Do Video Calls Improve Dispatcher-Assisted First Aid for Infants with Foreign Body Airway Obstruction? A Randomized Controlled Trial/Simulation Study	J Nippon Med Sch	2022年10月	89巻5号:P526-532.	Original Article
23	Yutaka Igarashi, Taiki Mizobuchi, Ryuta Nakae et.al.	救命救急科	Trends in the number of patients from traffic accidents and the state of emergency	Acute Med Surg	2022年10月	9巻1号 :e799.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
24	Ryuta Nakae, Yasuo Murai, Yasuhiro Takayama et.al.	救命救急科	Neurointensive Care of Traumatic Brain Injury Patients Based on Coagulation and Fibrinolytic Parameter Monitoring	Neurol Med Chir (Tokyo)	2022年12月	6巻12号 P535-541.	Original Article
25	Yutaka Igarashi, Kei Ogawa, Kan Nishimura et.al.	救命救急科	Machine learning for predicting successful extubation in patients receiving mechanical ventilation	Front Med (Lausanne)	2022年8月	11巻9号:961252.	Review
26	Ryuta Nakae, Yasuo Murai, Akio Morita et.al.	救命救急科	Coagulopathy and Traumatic Brain Injury: Overview of New Diagnostic and Therapeutic Strategies	Neurol Med Chir (Tokyo)	2022年6月	62巻6号:P261-269.	Original Article
27	Hiroki Umezawa	形成外科・再建外科・美容外科	Relationship between pharyngeal or esophageal reconstruction and esophageal pressure after swallowing.	Cancer Rep (Hoboken)	2023年1月	第6巻 e1619	Original Article
28	Teruyuki Dohi	形成外科・再建外科・美容外科	Combination Therapy for a Severe Axillary Keloid with Abscesses: A Case Report	J Nippon Med Sch	2023年2月	第89巻 P645-648	Case report
29	Rei Ogawa	形成外科・再建外科・美容外科	Ogawa R. The Most Current Algorithms for the Treatment and Prevention of Hypertrophic Scars and Keloids: A 2020 Update of the Algorithms Published 10 Years Ago.	Plast Reconstr Surg	2023年1月	第149巻 P79-94	Review
30	Kubota Yoshiaki, Shimizu Wataru	循環器内科	Clinical Benefits of Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitors and the Mechanisms Underlying Their Cardiovascular Effects	JACC: Asia.	2022年6月	2 (3_Part_2) 287-293	Review
31	Y Watanabe, H Murata, H Takano, et al.	循環器内科	External Validation of the Kumamoto Criteria in Transthyretin Amyloid Cardiomyopathy Screening - A Retrospective Cohort Study	Circulation Reports	2022年12月	第4巻 P579-587	Original Article
32	Kenji Yodogawa, Yuhi Fujimoto, Kanako Hagiwara, et al.	循環器内科	Possibility of steroid therapy without pacemaker implantation in patients with sarcoidosis presenting atrioventricular block.	Heart and Vessels	2022年11月	37(11):1892-1898.	Original Article
33	Akutsu K, Watanabe A, Yamada T, et al	循環器内科	Vascular involvements are common in the branch arteries of the abdominal aorta rather than in the aorta in vascular Ehlers-Danlos syndrome.	CJC open	2022年11月	第5巻 P72-76	Original Article
34	Okada T, Akutsu K, Saito H, et al.	循環器内科	Imaging Study of Acute Limited Intimal Tear.	Circulation report	2022年12月	5巻 13-14	Case report
35	Aoyama R, Kubota Y, Tara S, et al.	循環器内科	Vascular Endothelial Dysfunction in Myeloproliferative Neoplasms and Gene Mutations	Int Heart J	2022年7月	63 (4) P661-668	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
36	Yusuke Hosokawa, Takeshi Yamamoto, Shuheï Tara et al.	心臓血管集中治療科	Comparison of Percutaneous Coronary Intervention Procedures and Outcomes for Recent and Acute ST-Elevation Myocardial Infarction	Int Heart J	2023年3月	第64巻 P 352-357	Original Article
37	Jun Nakata, Keita Saku, Takuya Nishikawa et al.	心臓血管集中治療科	Substantial Reduction of Acute Ischemic Mitral Regurgitation Using Impella in AMI Complicated with Cardiogenic Shock	Int Heart J	2023/3/31	第64巻 P 294-298	Case report
38	Hideto Sangen, Takeshi Yamamoto, Shuheï Tara et al.	心臓血管集中治療科	Clinical Characteristics and Prognosis of Life-Threatening Acute Myocardial Infarction in Patients Transferred to an Emergency Medical Care Center	Int Heart J	2023/3/31	第64巻 P 164-171	Original Article
39	Reiko Shiomura, Hideki Miyachi, Takeshi Yamamoto et al,	心臓血管集中治療科	A rare mechanism of embolic stroke complicating coronary thrombus aspiration	Clin Case Rep	2023/02/21 (オンライン)	第11巻 e6951	Case report
40	Miyachi H, Yamamoto T, Takayama M et al,	心臓血管集中治療科	10-Year Temporal Trends of In-Hospital Mortality and Emergency Percutaneous Coronary Intervention for Acute Myocardial Infarction	JACC Asia	2022/10/4	第2巻 P677-688	Original Article
41	Kunoki S, Tatsukawa H, Sakai Y,	腎臓内科	Inhibition of Transglutaminase 2 Reduces Peritoneal Injury in a Chlorhexidine Induced Peritoneal Fibrosis Model.	Lab Invest	2023年1月	オンライン	Original Article
42	Miyamoto D, Sato N, Nagata K,	腎臓内科	Analysis of Purine Metabolism to Elucidate the Pathogenesis of Acute Kidney Injury in Renal Hypouricemia.	Biomedicines.	2022年7月	オンライン	Original Article
43	Yan T, Sakai Y, Terada K,	腎臓内科	A Case of Hepatitis E Virus Infection: One of Differential Diagnosis of Liver Injury in Patients Undergoing Peritoneal Dialysis.	Int Med Case Rep J.	2022/10/1	10;15:557-561	Case report
44	Tani T, Senda Miyake E, Sugino K	腎臓内科	Imaging Findings in a Case of Bacteremia Caused by Non-Typhoidal Salmonella Associated with a Congenital Venous Malformation.	Nippon Med Sch.	2022年9月	89(6):570-571.	Others
45	Arai M, Mii A, Hiramata A, Kaneko T,	腎臓内科	A possible role of classical complement pathway activation in the pathogenesis of immunoglobulin G nephropathy: a case report.	CEN Case Rep.	2023年2月	12(1):14-22.	Case report
46	Kitagawa Y, Ono K, Tsunoda R et al.	整形外科・リウマチ外科	Spinal metastases without pedicle signs on radiograph and their associated clinical and radiological features.	J Nippon Med Sch.	2022年8月	第89巻(4) P384-391	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
47	Tomori Y, Mochizuki T, Ohno H et al.	整形外科・リウマチ外科	Purulent Flexor Tendon Rupture of the Hand due to Mycobacterium abscessus Infection: A Case Report and Review of the Literature.	J Nippon Med Sch.	2022年6月	第89巻(3) P347-354	Case report
48	Tomori Y, Nanno M, Majima T et al.	整形外科・リウマチ外科	Comparison of Single-Plate and Double-Plate Osteosynthesis with Locking Plate Fixation for Distal Humeral Fracture in Older Adults.	J Nippon Med Sch	2022年10月	第89巻(5) P506-512	Original Article
49	Fukuhara D, Ono K, Kenji T et al.	整形外科・リウマチ外科	A Narrative Review of Full-Endoscopic Lumbar Discectomy Using Interlaminar Approach	World Neuro	2022年12月	第168巻 P324-332	Original Article
50	Kawaguchi H, Ono K, Takabayashi N et al.	整形外科・リウマチ外科	Cine MRI Is Useful for the Diagnosis of Intradural Arachnoid Cyst with Spinal Arachnoid Web: A Case Report	JBJS Case Connec	2022年8月	第12巻(3) doi: 10.2106/JBJS.CC.21.00818.(オンライン)	Case report
51	Tomori Y, Motoda N, Tsunoda R et al.	整形外科・リウマチ外科	Solitary Chondrosarcoma of the Right Ring Finger: A Case Report	J Nippon Med Sch	2022年12月	第89巻(6) P599-605	Case report
52	Okubo A, Kajikawa Y, Nakajima S et al.	整形外科・リウマチ外科	Ligament reconstruction using a semitendinosus tendon graft for proximal tibiofibular joint disorder: Case report	SICOT J	2022年8月	PMID: 35363134 Free PMC article.(オンライン)	Case report
53	Nogami Tsuyoshi, Arakawa Ryouyuke, Sakayori Takeshi, et al.	精神神経科	Effect of DL-Methylephedrine on Dopamine Transporter Using Positron Emission Tomography With [18F]PE-PE2I.	Frontiers in Psychiatry	2022年5月(オンライン)	13:799319. doi: 10.3389/fpsy.2022.799319	Original Article
54	Otaka Yasushi, Arakawa Ryouyuke, Narishige Ryuichiro, et al.	精神神経科	Factors Regarding Suicide Decline in Japan: A Longitudinal Study on Psychiatric Diagnosis of Serious Suicide Attempters.	Journal of Nippon Medical School	2022年8月	第89巻 P392-398	Original Article
55	Nishikawa Yoshito, Fukushima Yoshimitsu, Takagi G, et al.	放射線科	Diagnostic performance of quantitative Ga-SPECT/CT for patients with lower-limb osteomyelitis	Eur J Hybrid Imaging	2022年12月	第6巻1号ePub	Original Article
56	Uehara K, Tagami T, Hyodo H, Ohara T, Sakurai A, Kitamura N, Nakada TA, Takeda M, Yokota H, Yasutake M.	総合診療科	Prehospital ABC (Age, Bystander and Cardiogram) scoring system to predict neurological outcomes of cardiopulmonary arrest on arrival: post hoc analysis of a multicentre prospective observational study.	Emerg Med J	2023年1月	第40巻1号	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
57	Ryuta Nagaoka, Marie Saitou, Kiyotaka Nagahama et al.	内分泌外科	Downhill varices in the hypopharynx due to huge thyroid tumor: a case report	J Nippon Med Sch	2022年10月	オンライン	Case report
58	Sugitani I	内分泌外科	Active surveillance of low-risk papillary thyroid microcarcinoma	Best Pract Res Clin Endocrinol Metab	2023年1月	24;101630.	Original Article
59	Nounaka Youhei	脳神経外科	Usefulness of 4K-resolution Indocyanine Green Endoscope for the Removal of Spontaneous Intracerebral Hematomas.	Neuro Medico Chirurgica (Tokyo)	2023年1月	63(1):37-41	Original Article
60	Murai Yasuo	脳神経外科	Evaluation of Ethyl Violet as an Alternative Dye to Crystal Violet to Visualize the Vessel Wall during Vascular Anastomosis.	Neuro Medico Chirurgica (Tokyo)	2022年11月	62(11):530-534	Original Article
61	Tahara Shigeyuki	脳神経外科	Trends in surgical procedures for spontaneous intracerebral hemorrhage in Japan.	Journal of stroke and cerebrovascular disease	2022年9月	31(9):106664	Original Article
62	Teramoto Shinichiro	脳神経外科	Injury to the Extrasellar Portion of the Internal Carotid Artery during Endoscopic Transsphenoidal Surgery: A Case Report.	Frontier Surgery	2022年5月	9: 895233	Case report
63	Murai Yasuo	脳神経外科	Use of a Contest Format for Objective Assessment of Microsurgical Technique: An Observational Study.	Journal of Nippon Medical School	2022年8月	89(4): 405-411	Original Article
64	Murai Yasuo	脳神経外科	Factors Influencing Long-Term Blood Flow in Extracranial-to-Intracranial Bypass for Symptomatic Internal Carotid Artery Occlusive Disease: A Quantitative Study.	Neurosurgery	2022年4月	90(4): 426-433	Original Article
65	K Iwata, T Sekine, J Matsuda, et al.	放射線科	Measurement of Turbulent Kinetic Energy in Hypertrophic Cardiomyopathy Using Triple-velocity Encoding 4D Flow MR Imaging	Magnetic Resonance in Medical Sciences	2022年12月 (オンライン)	p1-10	Original Article
66	Shogo Imai, Tomonari Kiriya, Koji Kanaya, et al.	放射線科	Estimation of Microvascular Dysfunction by Using <sup>13</sup> N-Ammonia Positron Emission Tomography with Quantitative Myocardial Blood Flow Analysis in Chronic Coronary Syndrome	J Nippon Med Sch	2023年2月	第90 第2号 p 228-236	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
67	Kimura Go	泌尿器科	The Association of Tumor Immune Microenvironment of the Primary Lesion with Time to Metastasis in Patients with Renal Cell Carcinoma: A Retrospective Analysis	cancers	2022年10月	14 52-58	Original Article
68	Takeda Hayato	泌尿器科	Long-Term Oncological Outcomes of High-Risk Prostate Cancer defined by Histopathological Examination.	JNMS	2023年2月	90 202-209	Original Article
69	Akatsuka Jun	泌尿器科	Vesicocutaneous fistula due to vesical diverticulitis with stones: A case report and literature review	IJU case	2022年10月	Volume 6, Issue1Pages 46-50	Case report
70	Yuki Endo	泌尿器科	Efficacy and Safety of Transurethral Enucleation with Bipolar Energy for the Treatment of Benign Prostatic Hyperplasia: Does Prostate Volume Matter?	JNMS	2022年5月	89. 436-442	Original Article
71	Yanagi Masato	泌尿器科	Rhabdomyolysis after Retroperitoneal Laparoscopic Radical Nephrectomy in the Lateral Decubitus Position	JNMS	2022年8月	89.466-468	Case report
72	Yanagi Masato	泌尿器科	Differential diagnosis and prognosis of small renal masses: association with collateral vessels detected using contrast-enhanced computed tomography	BMC cancer	2022年8月	5;22(1):856	Original Article
73	Shintaro Kanaka,Satoshi Mizutani,Yasuyuki Yokoyama et al.	消化器外科	Periappendiceal fluid collection on preoperative computed tomography can be an indication for interval appendectomy: a retrospective study	World J Emerg Surg.	2022年5月	第17巻1号 P30	Original Article
74	Shintaro Kanaka,Akihisa Matsuda,Takeshi Yamada et al.	消化器外科	Colonic stent as a bridge to surgery versus emergency resection for right-sided malignant large bowel obstruction: a meta-analysis	Surgical endoscopy	2022年5月	第36巻5号 P2760-2770	Review
75	Seiichi Shinji,Yuuki Shichi,Takeshi Yamada et al.	消化器外科	A New Anorectal Melanoma Cell Line Derived from a Primary Human Rectal Tumor	J Nippon Med Sch.	2022年6月	第89巻4号 P368-376	Original Article
76	Koji Ueda,Takeshi Yamada,Ryo Ohta et al.	消化器外科	BRAF V600E mutations in right-side colon cancer: Heterogeneity detected by liquid biopsy	Eur J Surg Oncol.	2022年6月	第48巻6号 P1375-1383	Original Article



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
77	Junji Ueda, Hiroshi Yoshida et al.	消化器外科	Learning Curve of Resident Surgeons for Open Mesh Repair of Inguinal Hernia	Int Surg.	2022年8月	第106巻2号 P95-100	Original Article
78	Seiichi Shinji, Takeshi Yamada, Akihisa Matsuda et al.	消化器外科	Recent Advances in the Treatment of Colorectal Cancer A Review	J Nippon Med Sch.	2022年8月	第89巻3号 P246-254	Review
79	SHO KURIYAMA, TAKESHI YAMADA, AKIHISA MATSUDA et al.	消化器外科	Biomarkers for anti-vascular endothelial growth factor drugs	Oncology Letters	2022年11月	第24巻6号 P463	Original Article
80	Katsuyoshi Ankoh, Seiichi Shinji, Takeshi Yamada et al.	消化器外科	A Rapidly Growing Small-Intestinal Metastasis from Lung Cancer	J Nippon Med Sch.	2022年11月	第89巻5号 P540-545	Case Report
81	Yoshikazu Kanazawa, Takeshi Yamada, Tatsuro Yamaguchi et al.	消化器外科	A novel germline SMAD4 variant detected in a Japanese family with juvenile polyposis syndrome and hereditary hemorrhagic telangiectasia	Jpn J Clin Oncol.	2022年12月	hyac189(オンライン)	Original Article
82	Kohki Takeda, Akihisa Matsuda, Takeshi Yamada et al.	消化器外科	Useful preoperative simulation for laparoscopic surgery of rectal cancer with kyphosis	J Nippon Med Sch.	2022年12月	第89巻6号 P634-639	Case Report
83	Akihisa Matsuda, Takeshi Yamada, Goro Takahashi et al.	消化器外科	Postoperative infectious complications have a negative oncological impact in patients after stent placement with malignant large bowel obstruction	Multicenter Study Int J Colorectal Dis.	2023年1月	第38巻1号 P2	Original Article
84	Akihisa Matsuda, Takeshi Yamada, Ryo Ohta et al.	消化器外科	Surgical Site Infections in Gastroenterological Surgery	J Nippon Med Sch.	2023年2月	第90巻 P64-68	Original Article
85	Hiroshi Yoshida, Tetsuya Shimizu, Masato Yoshioka	消化器外科	The Role of the Spleen in Portal Hypertension	J Nippon Med Sch.	2023年2月	第90巻1号 P20-25	Review
86	Ono Mayo, Fukuda Izumi, Nagao Mototsugu, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	HLA analysis of immune checkpoint inhibitor-induced and idiopathic isolated ACTH deficiency	Pituitary	2022年8月	第25巻4号 P615-621	Original Article
87	Oba Takeshi, Nagao Mototsugu, Kobayashi Shunsuke, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Perioperative glycemic status is linked to postoperative complications in non-intensive care unit patients with type-2 diabetes: a retrospective study	Therapeutic Advances in Endocrinology and Metabolism	2022年5月 (オンライン)	第19巻	Original Article
88	Nagao Mototsugu, Harada Taro, Inagaki (Tanimura) Kyoko, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Fasting plasma glucose level-based formula for estimating starting daily dose in basal-bolus insulin therapy	Scientific Reports	2023年1月 (オンライン)	第13巻 Article No. 1032	Original Article
89	Nagao Mototsugu, Sasaki Jun, Sugihara Hitoshi, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Efficacy and safety of sitagliptin treatment in older adults with moderately controlled type 2 diabetes: the STREAM study	Scientific Reports	2023年1月 (オンライン)	第13巻 Article No. 134	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名	出版年月等	巻数・該当ページ	論文種別
90	Hoshina H, Kubouchi K, Tsutsumi Y, et al.	乳腺科	Radiation-induced fibrosarcoma after breast-conserving therapy for breast cancer: a case report and literature review	Surg Case Rep.	2023年3月	第9巻 P50	Case report
91	Nakai M, Yamada T, Sekiya K, et al	乳腺科	Use of Liquid Biopsy to Detect PIK3CA Mutation in Metastatic Breast Cancer	J Nippon Med Sch	2022年5月	第89巻 P66-71	Original Article
92	Watanabe M, Fukazawa R, Matsui R, et al.	小児科	Three cases of young children who underwent effective catheter treatment for severe coronary stenosis caused by Kawasaki disease.	J Cardiol Cases.	2023年1月	17;27(4):180-183.	Case report
93	Tanabe Y, Ota H, Kaneko S, Tsuno et al.	小児科	Clinical course and cytokine analysis of a systemic juvenile idiopathic arthritis patient with trisomy 21.	J Nippon Med Sch	2022年10月	オンライン (早期公開)	Original Article
94	Narazaki H, Akioka S, Akutsu Y, et al.	小児科	Epidemiology conduction of paediatric rheumatic diseases based on the registry database of the Pediatric Rheumatology Association of Japan	Mod Rheumatol	2022年9月	オンライン	Original Article
95	Watanabe M, Fukazawa R, Kamisago M, et al.	小児科	Prognosis of Coronary Artery Bypass Grafting in Preschool Aged Patients with Myocardial Ischemia Due to Giant Aneurysm of Kawasaki Disease.	J. Clin. Med.	2022年5月	4;11(5):1421.	Original Article
96	Shima Y, Fukami T, Takahashi T et al.	小児科	Role of a Fetal Ultrasound Clinic in Promoting Multidisciplinary and Inter-Facility Perinatal Care.	J Nippon Med Sch.	2022年6月	89(3):337-341.	Original Article
97	Tajima H, Ogawa J, Nose I, et al.	小児科	Effect of Childhood Disease on Hospital Presentation: A Survey of Pediatricians	J Nippon Med Sch.	2022年5月	89(2):190-195.	Original Article

計97件

- (注 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 研究の課題、審査委員会と窓口、研究内容と審査機関、臨床研究実施の流れ、研究計画書作成ならびに新生児の注意事項、研究計画の事前登録、学外での研究計画書の審査依頼について、相談窓口	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 委員会の構成、審議事項、利益相反マネジメントのプロセス 臨床研究に係る利益相反の審議に関する倫理委員会の関係、利益相反マネジメントの管理の方法等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回 (但し特例案件126件)

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容 ○新医学系倫理指針（人を対象とする生命科学・医学研究に関する倫理指針）の改訂のポイントと本学での倫理審査について ○臨床研究における研究計画書の作成のポイント ○個人情報改正と生命医学系指針および臨床研究法について	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1 研修の内容

当院の専門研修プログラムは、2年間の必修初期臨床研修の終了後、さらに臨床医学に関する知識と技能を向上させ、より専門的な臨床研修を行うためのものである。平成30年度より、新たな専門医制度が始まり、基本領域学会及び日本専門医機構の審査・認定を受けた専門研修プログラムに基づき、各領域で専門医取得や大学院進学等につながる多彩な研修コースを提示している。日本医科大学付属病院、武蔵小杉病院、多摩永山病院、千葉北総病院の四つの付属病院において、それぞれの特色を生かした診療体制の中でローテーションが可能であり、高度な医療、先進医療の研修を可能にしている。愛と研究心を有し、質の高い医療を求める国民のニーズに応えうる人材の育成を目指す。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	214.66	人
-------------	--------	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
高木 元	総合診療科	部長	30 年	
浅井 邦也	循環器内科	部長	34 年	
木村 和美	脳神経内科	部長	37 年	
酒井 行直	腎臓内科	部長	31 年	
桑名 正隆	リウマチ科	部長	35 年	
山口 博樹	血液内科	部長	30 年	
岩切 勝彦	消化器・肝臓内科	部長	37 年	
岩部 真人	内分泌代謝内科	部長	20 年	
清家 正博	呼吸器内科	部長	31 年	
安武 正弘	老年内科	部長	39 年	
舘野 周	精神科	部長	29 年	
伊藤 保彦	小児科	部長	40 年	
佐伯 秀久	皮膚科	部長	32 年	
石川 真士	麻酔科	部長	16 年	
林 宏光	放射線科	部長	36 年	
吉田 寛	消化器外科	部長	37 年	
武井 寛幸	乳腺外科	部長	37 年	
杉谷 巖	内分泌外科	部長	34 年	
石井 庸介	心臓血管外科	部長	30 年	
臼田 実男	呼吸器外科	部長	29 年	
村井 保夫	脳神経外科	部長	30 年	
岡本 史樹	眼科	部長	29 年	
大久保 公裕	耳鼻いんこう科	部長	39 年	
鈴木 俊治	産婦人科	部長	35 年	
近藤 幸尋	泌尿器科	部長	38 年	

眞島 任史	整形外科	部長	39	年
小川 令	形成外科	部長	24	年
横堀 将司	救急科	部長	24	年
廣田 薫	漢方内科	部長	34	年
大橋 隆治	病理診断科	部長	31	年
久野 彰子	歯科	部長	30	年
青柳 陽一郎	リハビリテーション科	部長	30	年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- (1)医療機器安全管理研修会「除細動器」
- (2)1)人工呼吸器管理とウイニグプロトコル
- 2) 急性期・周術期の鎮痛と鎮静管理、
- 3) SEWスコアを用いた急変予測と対応
- 4) 急性期脳卒中患者の病態生理と治療戦略
- 5) うつ状態の心理とケア
- 6) MDRPUの予防とケア
- 7) 周術期管理
- 8) 耳鼻科疾患と嚥下機能の評価
- 9) アブレーション治療の適応と管理
- 10) 大動脈解離の対応
- 11) 整形外科の術後管理
- 12) 不整脈のデバイス治療と管理
- 13) 誤嚥性肺炎の予防と口腔ケア
- 14) 災害発生時の対応（CSCATTT）
- 15) 消化器疾患の検査と治療
- 16) がん放射線療法に必要な基本知識等

・研修の期間・実施回数

- (1)2022年12月2日～2023年1月2日・1回
- (2)2022年4月1日～2023年3月末日・125回

・研修の参加人数

- (1)看護師他 1,474名
- (2)看護師 延べ3,685名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- (1)医療機器安全管理研修会「医療機器の安全な取り扱い」
- (2)令和4年度 医薬品安全講習会

・研修の期間・実施回数

- (1)2022年12月26日～2023年1月26日・1回
- (2)2023年2月10日～2023年3月31日・1回

・研修の参加人数

- (1)看護師他 1,434名
- (2)全職員 2,404名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

- (1)1)人工呼吸器管理とウイニグプロトコル
- 2) 急性期・周術期の鎮痛と鎮静管理、
- 3) SEWスコアを用いた急変予測と対応
- 4) 急性期脳卒中患者の病態生理と治療戦略
- 5) うつ状態の心理とケア
- 6) MDRPUの予防とケア

<ul style="list-style-type: none"> <li>7) 周術期管理</li> <li>8) 耳鼻科疾患と嚥下機能の評価</li> <li>9) アブレーション治療の適応と管理</li> <li>10) 大動脈解離の対応</li> <li>11) 整形外科の術後管理</li> <li>12) 不整脈のデバイス治療と管理</li> <li>13) 誤嚥性肺炎の予防と口腔ケア</li> <li>14) 災害発生時の対応（CSCATTT）</li> <li>15) 消化器疾患の検査と治療</li> <li>16) がん放射線療法に必要な基本知識等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の期間・実施回数</li> </ul> <p>(1)2022年4月1日～2023年3月末日・51回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の参加人数</li> </ul> <p>(1)看護師 78名</p>
--

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	院長 汲田 伸一郎	
管理担当者氏名	各部署長	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課	電子保存管理 病院外持出の運用は無い
		各科診療日誌	電子カルテ内サーバー	
		処方せん	電子カルテ内サーバー	
		手術記録	電子カルテ内サーバー	
		看護記録	電子カルテ内サーバー	
		検査所見記録	電子カルテ内サーバー	
		エックス線写真	電子カルテ内サーバー	
		紹介状	電子カルテ内サーバー	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ内サーバー	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	ファイル、P Cによる保存管理
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課	
		高度の医療の研修の実績	各部署	
		閲覧実績	庶務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	電子カルテ内サーバー	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課、薬剤部	ファイル、P Cによる保存管理
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	



			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室	ファイル、PCによる保存管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	法人本部総務部、庶務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	庶務課
		職員研修の実施状況	庶務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	庶務課
管理者が有する権限に関する状況	法人本部総務部		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人本部秘書室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	院長 汲田 伸一郎
閲覧担当者氏名	庶務課 課長 樋口 憲二
閲覧の求めに応じる場所	閲覧室
閲覧の手続の概要 閲覧についての書類を受取後、対応	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延 2 件	
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 1 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：</li> <li>1. 医療安全管理に関する基本的考え方</li> <li>2. 医療に係る安全管理の組織に関する基本的事項</li> <li>3. 医療安全管理のための職員研修に関する基本的事項</li> <li>4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 当院と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供</li> <li>9. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供</li> <li>10. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</li> <li>・ 開催状況：年 12 回</li> <li>・ 活動の主な内容：</li> <li>1. 医療の安全管理の総括に関すること</li> <li>2. 医療安全管理指針及び医療安全マニュアルの策定、変更に関すること</li> <li>3. 重大な医療事故等に関する原因究明のための調査及び分析に関すること</li> <li>4. 前号の分析結果を活用した医療事故等防止法策の立案及び実施ならびに従業者への周知に関すること</li> <li>5. 医療事故等防止方策の実施状況の調査及び見直しに関すること</li> <li>6. 死亡退院事例報告の実施状況の確認及び確認結果の院長への報告ならびに従業者への研修及び指導に関すること</li> <li>7. 医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 6 条の 11 に規定する医療事故調査及び医療事故調査等支援団体に関すること</li> <li>8. 高難度新規医療技術等を用いた医療の提供に関すること</li> <li>9. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関すること</li> <li>10. その他医療安全管理に関すること</li> </ul>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>①令和 4 年度 第 1 回 医療安全管理研修講演会（e ラーニング形式） 開催期間：令和 4 年 4 月 11 日～令和 4 年 5 月 31 日 演 題：みんなの SBAR 講 師：東京海上日動</p> <p>②令和 4 年度 第 2 回 医療安全管理研修講演会（e ラーニング形式） 開催期間：令和 4 年 6 月 10 日～令和 4 年 7 月 31 日 演 題：身体拘束ガイドライン改訂に関して 講 師：リスクマネージャー委員会 身体拘束適正化 WG</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理集中管理システム（セーフマスター）での管理</li> <li>2. 医療安全管理に関する規定（指針、ガイドライン、マニュアル）の改正</li> <li>3. 医療安全管理の手引きの改正、配布</li> <li>4. リスクマネージャー委員会（月 1 回）における改善方策周知</li> <li>5. 院内リスクアナウンス（安全情報等）の周知確認登録 （電子カルテシステム画面を利用したポータルサイト、院内 FAX 等）</li> </ol>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：</li> <li>・ せんだぎるーるぶっく（院内作成の医療安全に関するハンドブック、年 1 回改訂） 「当院の院内感染対策」項として掲示</li> <li>・ 病院感染対策マニュアル（電子カルテ内ポータルサイトに掲載、随時改訂）を整備</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：</li> <li>病院感染対策委員会・感染管理マネージャー会議として、月 1 回開催</li> <li>定例報告：疫学月報、ICT 活動報告、AST 活動報告、栄養科報告、感染症流行状況報告等</li> <li>その他：COVID-19 院内状況報告、耐性菌院内発生報告、感染症法関連通知等報告など</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：</li> <li>・ <u>院内感染対策研修講演会（年 2 回）：全従業員を対象とし、ポストテストあり</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「結核を疑う患者さんが受診した時に医療職はどのように対応すべきか」 令和 4 年 12 月 26 日～令和 5 年 1 月 31 日（eラーニングシステム掲載による開催）</li> <li>2. 「医療関連感染概論（当院の組織を含む）」 令和 5 年 2 月 20 日～令和 5 年 3 月 20 日（eラーニングシステム掲載による開催）</li> </ol> </li> <li>・ <u>抗菌薬適正使用推進研修（年 1 回）：全従業員を対象とし、ポストテストあり</u> 「特定抗菌薬の届出制・許可制についてのご理解、ご協力をお願い」 令和 4 年 7 月 15 日～令和 4 年 8 月 15 日（eラーニングシステム掲載による開催）</li> <li>・ <u>感染症レクチャー（年 2 回）：内科専攻医制度委員会、臨床研修センターと協働し、ポストテストあり</u> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「使える！アンチバイオグラム～アンチバイオグラムの活用方法 見方・使い方～」 令和 4 年 10 月 12 日（Web 形式）</li> <li>2. 「新型コロナウイルス感染症の画像所見 ～covid-19 以外の肺炎 ARDS との比較、診療におけるステロイド使用の留意点～」 令和 4 年 11 月 9 日（Web 形式）</li> </ol> </li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul>	

- 院内で感染症発生時には事象毎に発生報告書を作成し、それをもとに院長報告及び委員会報告を実施している
- 1. 新型コロナウイルス感染症発生報告（患者、医療スタッフ）
- 2. 高度救急救急センター  
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症（CRE）検出に伴う環境調査実施
- 3. 職員からのインフルエンザ発生報告

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>最近の他施設での医薬品関連の事故、事件の紹介。</p> <p>当院で発生した薬剤関連のインシデント報告及びインシデント発生を未然に防止するための医薬品取り扱いに関する留意点。</p> <p>薬剤部からの医薬品安全性情報、日本医療評価機構からの医薬品に関する安全性情報</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 ( 有・無 )</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>年 2 回 ( 3・9 月 ) 薬剤部、病棟、外来、医局長、薬事委員に対し、病棟に対しては年 4 回 ( 3・6・9・12 月 )、その実施状況についてチェックリストを用いて確認。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</p> <p>・ 未承認などの医薬品の具体的な使用事例(あれば)：なし 未承認等の医薬品の使用事例はない。</p> <p>適応外使用については添付文書で定める用法用量を超えた濃度および投与量での注射用カリウム製剤の使用について付属病院倫理委員会に審査、承認を受け、申請した診療科に限定しオプトアウトにて情報公開を行った上で申請通り適切に使用されていることを確認している。定期的に投与後のモニタリングを行い、医薬品安全管理委員会で報告している。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>薬品情報室が厚生労働省 HP、PMDA、メーカー各社 HP、製造販売業者 HP、学術誌等で情報を収集している。</p> <p>得られた情報のうち必要と判断されたものについては医薬品を取り扱う職員を対象に以下の方法にて周知している。</p> <p>部長会、医長会 ( 院内会議 ) において説明。電子カルテの掲示板機能の活用。</p> <p>部長会、医長会 ( 院内会議 ) において説明。電子カルテの掲示板機能の活用。</p> <p>医薬品情報 ( 毎月 )、薬剤部ニュース ( 随時 ) を各部署に配布。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 85 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 特定機能病院における定期研修  2022年5月17日 血液浄化（研修医対象）  2022年5月24日 人工呼吸器（研修医対象）  2021年5月 ME機器【人工呼吸器、除細動器など】（新人看護師対象） DVD配布  その他 21回</p> <p>2) 新しい医療機器の導入時の研修  2022年4月14日 輸液ポンプ（麻酔科医師、看護師、臨床工学技士対象）  2022年5月9日 人工呼吸器 トリロジーevo（心臓血管集中治療医師、看護師対象）  2022年5月11日 保育器（看護師対象）  その他 24回</p> <p>3) その他必要に応じた研修  2022年4月20日 手術室の医療機器について（看護師対象）  2022年4月27日 人工呼吸器について（看護師対象）  2022年5月9日 麻酔器の基礎、使用について（臨床工学技士対象）  その他 32回</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （有・無）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>〈人工心肺〉9月に定期点検を実施  〈補助循環装置〉5月～12月に各装置の定期点検を実施  〈血液浄化装置〉4月～3月に各装置の定期点検を実施  〈除細動器〉5月、8月、11月、2月に定期点検を実施  〈閉鎖式保育器〉4月、6月、7月、10月、1月に定期点検を実施</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集	
<p>その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有・無）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>PMDA、JQCQC 等から発信される医療安全情報、医療機器製造および販売業者より発信される安全使用のための情報を収集し保管している。また、周知が必要な内容については Web を使用下院内への ME 部新聞発行による全体周知、および医療機器の安全管理研修で周知と報告をしている。医療機器の使用中のトラブルについても集計し院内勉強会などで周知をしている。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・責任者の資格 (<input checked="" type="checkbox"/>医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>●医療安全管理責任者は、医療安全管理部、医療に係る安全管理のための委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者を統括する</p>	
専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (5名) ・無
<p>・医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>医療安全管理委員会の下部組織として、医薬品安全管理委員会を設置し、医薬品安全管理責任者（薬剤部部長）が委員長を務めている。委員には医療安全管理者も含まれており、院内の医薬品に係る安全使用と事故防止及び適切な管理を行うため必要な対応を行っている。尚、委員会での決議は随時、医薬品安全管理責任者により医療安全管理委員会に報告を行っている。</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成、従業員に対する医薬品の安全使用のための研修の実施、医薬品の業務手順書に基づく業務の実施、医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集、その他医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認新規医薬品等の使用状況の把握等を適切に実施するための担当者を薬剤部病棟部門長と定め、病棟薬剤師が実務を担当している。</p> <p>未承認新規医薬品等の使用予定の情報を入手した際は、担当医師に未承認新規医薬品等を用いた医療の実施に関する院内での手続きについて情報提供をしている。</p> <p>適応外使用、禁忌薬などに関しては、病棟業務および調剤時に使用情報を収集し、未承認新規医薬品等を用いた医療の実施同様、担当医師に院内での手続きについて情報提供している。</p> <p>使用に至った際はモニタリングを行い、適宜、医薬品安全管理責任者より院長に報告している。</p> <p>・担当者の指名の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p>	

<p>・担当者の所属・職種：薬剤部・薬剤師  (所属：薬剤部，職種：薬剤師、伊勢 雄也) (所属：薬剤部，職種：薬剤師、岸田 悦子)  (所属：薬剤部，職種：薬剤師、林 太祐)</p>	
医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/>有・無 )</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：  インフォームド・コンセントガイドラインに基づいて監査項目を設置し、定期的に質的・量的監査を実施している。順守率の低い項目に対し、インフォームド・コンセント委員会で周知のうえ、改善に繋げている。</p>	

診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：  形式監査は退院全件実施。入院計画、侵襲的治療の説明と同意、手術、退院時要約等の記録に対して約 40 項目を監査。内容監査は月間約 40 件実施。診療情報管理士、上級医、診療録管理室委員によりクロス監査。診断根拠、手術記録、入院や侵襲的治療の説明と同意、経過記録、退院時要約等の記録に対して約 50 項目を監査。結果は担当医師、委員会、院長へ報告。個別や会議で改善指導を実施している。</p>	
医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・所属職員：専従（17）名、専任（2）名、兼任（15）名  うち医師：専従（1）名、専任（2）名、兼任（6）名  うち薬剤師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名  うち看護師：専従（6）名、専任（0）名、兼任（5）名  （注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療に係る安全管理のための指針の整備に関すること</li> <li>2. 医療に係る安全管理のための委員会の開催に関すること</li> <li>3. 医療に係る安全管理のための職員研修の実施に関すること</li> <li>4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の策定に関すること</li> <li>5. その他医療に係る安全管理のための事務一般に関すること</li> <li>6. 院内の環境・設備ならびに職員の待遇に関する意見や苦情の対応に関すること</li> </ol>	

7. 医療に係る安全管理に関する相談の対応に関すること

8. 医療事故の渉外に関すること

9. 個人情報の適正管理に関すること

10. 個人情報の紛失、盗難、漏洩の防止に関すること

11. 個人情報の紛失、盗難、漏洩時の対応に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（10件）、及び許可件数（10件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）

・活動の主な内容：

1. 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する申請手続きに関すること（各診療科から提出される申請書類のチェック等）

2. 医療提供の適否決定に関すること（委員会での意見を確認のうえ、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める）

3. 医療提供後の確認に関すること（適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたか否かを確認のうえで院長報告を行い、必要に応じて実施体制の見直しを行う）

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無

(  ・無 )

・活動の主な内容：

1. 未承認新規（適用外は対象外）医薬品・医療機器等を用いた医療の申請手続きに関すること（各診療科から提出される申請書類のチェック等）
2. 医療提供の適否決定に関すること（委員会での意見を確認のうえ、適否について決定し、提供にあたっての条件等を定める）
3. 医療提供後の確認に関すること（適否の決定後、提供を認めた医療の報告対象の全症例について適切に業務が実施されたか否かを確認のうえで院長報告を行い、必要に応じて実施体制の見直しを行う）

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（  ・無 ）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（  ・無 ）

#### 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 583 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 1,029 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療安全管理委員会は、上記報告が適切に行われているかを確認し、その結果を院長に報告している。仮に報告が不十分であれば、必要な指導等を行っている。

#### 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（  （病院名：昭和大学病院、聖路加国際病院） ・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（  （病院名：昭和大学病院、聖路加国際病院） ・無）

・技術的助言の実施状況

自己評価票の作成、自己評価票に対する確認事項・質問事項を事前提出のうえ、実施訪問形式で実施したところ、医療安全文化調査の実施を検討した方が好ましいとの技術的助言があり、今年度においては、医療安全ニュースの定期配信等を含めた業務改善を図っている。

#### 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

（設置状況等）

・窓口の名称：患者相談窓口

・患者相談窓口の設置：平成 15 年 4 月 1 日

- ・責任者の氏名及び職種：医療安全管理部 部長（医師）
- ・対応部署：患者支援センター、医療安全管理部 患者相談室
- ・受付時間：月～金 8：30～16：30、土：8：30～15：30
- ・規約の整備状況：日本医科大学付属病院 患者相談窓口運営規則（平成17年4月1日施行）  
（活動状況）
- ・患者への明示方法：院内3ヶ所（本館2階正面玄関入口、東館1階玄関入口、本館1階患者支援センター入口）の他、入院案内パンフレット及びホームページでも明示している。

#### 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

#### 診療録管理について

- ①診療録の意義、役割 ②診療録記載で注意すべきこと ③診療録監査の役割

[実施時期]令和4年8月16日 診療録管理室 室長 八島 正明

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

#### 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

##### 1. 管理者

公益財団法人 日本医療機能評価機構 2022年度特定機能病院管理者研修  
修了日：2023年1月26日

##### 2. 医療安全管理責任者

公益財団法人 日本医療機能評価機構 2022年度特定機能病院管理者研修  
修了日：2023年2月9日

##### 3. 医薬品安全管理責任者

公益財団法人 日本医療機能評価機構 2022年度特定機能病院管理者研修  
修了日：2023年1月26日

##### 4. 医療機器安全管理責任者

公益財団法人 日本医療機能評価機構 2022年度特定機能病院管理者研修  
修了日：2023年1月26日

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

令和4年5月19日～令和4年5月21日

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

令和5年2月6日 当院ホームページにて公表

・ 評価を踏まえ講じた措置

特記事項なし

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <p>・ 基準の主な内容</p> <p>日本医科大学付属病院長選任規程 令和元年11月1日施行 令和5年4月1日改訂</p> <p>任期、選定の基準、候補者選考の事由及び時期、選考委員会の設置、構成</p> <p>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ 公表の方法 ホームページに掲載</p>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無			
<p>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 公表の方法</p>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無



規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合議体の主要な審議内容            病院の運営方針、中期計画、予算及び決算に関する事項            その他病院の管理運営に関する事項            人事異動報告、医療収入報告、医薬品情報報告、各種委員会における審議内容の報告            その他院長が必要と認める事項</li> <li>・ 審議の概要の従業者への周知状況            各部署長が出席し、審議内容を職員へ周知している。</li> <li>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ）</li> <li>・ 公表の方法</li> <li>・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ）</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
汲田 伸一郎	○	医師	院長
近藤 幸尋		医師	副院長
吉田 寛		医師	副院長
岩切 勝彦		医師	副院長
山口 博樹		医師	副院長
鈴木 智恵子		看護師	副院長
高木 元		医師	総合診療科部長
浅井 邦也		医師	循環器内科部長
木村 和美		医師	脳神経内科部長
酒井 行直		医師	腎臓内科部長
桑名 正隆		医師	リウマチ・膠原病内科部長
岩部 真人		医師	糖尿病・内分泌代謝内科部長
清家 正博		医師	呼吸器内科部長
笠原 寿郎		医師	化学療法科部長
安武 正弘		医師	老年内科部長
館野 周		医師	精神神経科部長
伊藤 保彦		医師	小児科部長
佐伯 秀久		医師	皮膚科部長
石川 真士		医師	麻酔科・ペインクリニック部長
鈴木 規仁		医師	緩和ケア科部長
林 宏光		医師	放射線科部長
前林 勝也		医師	放射線治療科部長

武井 寛幸		医師	乳腺科部長
杉谷 巖		医師	内分泌外科部長
臼田 実男		医師	呼吸器外科部長
石井 庸介		医師	心臓血管外科部長
村井 保夫		医師	脳神経外科部長
岡本 史樹		医師	眼科部長
大久保 公裕		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長
鈴木 俊治		医師	女性診療科・産科部長
眞島 任史		医師	整形外科・リウマチ外科部長
小川 令		医師	形成外科・美容外科・再建外科部長
新井 正徳		医師	救急診療科部長
横堀 將司		医師	救命救急科部長
廣田 薫		医師	東洋医学科部長
山田 岳史		医師	遺伝診療科部長
眞々田 裕宏		医師	がん診療科部長
山本 剛		医師	心臓血管集中治療科部長
大橋 隆治		医師	病理診断科部長
間瀬 大司		医師	外科系集中治療科部長
青柳 陽一郎		医師	リハビリテーション科部長
久野 彰子		歯科医師	口腔科（周術期）部長
寺崎 泰弘		医師	病理部部長
柏木 哲也		医師	血液浄化療法センターセンター長
後藤 修		医師	内視鏡センターセンター長
遠藤 康実		医師	臨床検査部部長
宮本 正章		医師	高気圧酸素治療室室長
平川 経晃		医師	輸血部部長
大塚 俊昭		医師	臨床研究総合センターセンター長
八島 正明		医師	保険診療指導部部長
三井 亜希子		医師	腎クリニック所長
藤田 和恵		医師	医療安全管理部感染制御室室長
伊勢 雄也		薬剤師	薬剤部部長
山本 臣生		事務職員	事務部部長
樋口 憲二		事務職員	事務部副部長
水鳥 美幸		事務職員	事務部医事課長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容  
管理者は、病院の業務を統括し、所属職員を指揮監督すると共に、病院全般の円滑な運営に当たる。  
予算承認について、支出に拘わる案件の予算承認限度額を定める。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割  
【職名】副院長  
手術室運営に関する事、収支改善に関する事、医療経費削減に関する事、  
医療連携に関する事、医師の負担軽減に関する事、臨床研修センター運営に関する事、  
医療安全・感染対策に関する事、経営戦略に関する事、看護部門に関する事、  
患者安全管理に関する事、病棟稼働率・平均在院日数等の効率化に関する事
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
日本私立医科大学協会病院事務長会議、病院庶務研究会等に出席している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>(2) 必要に応じ、理事長又は院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。</p> <p>(3) 上記業務について、その結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>学校法人のホームページへ掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長島 隆	東洋大学	○	利害関係のない学識経験者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
小泉 博明	文京学院大学		利害関係のない学識経験者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
豊田 郁子	NPO 法人「架け橋」		利害関係のない医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
櫻田 晋太郎	弁護士		利害関係のない学識経験者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
近藤 幸尋	日本医科大学付属病院		副院長・泌尿器科部長	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

定期的（年1回）に管理者による病院の管理状況を確認する。

必要に応じて臨時に確認を実施する

・ 専門部署の設置の有無（  ・ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（  ・ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（  ・ 無 ）

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況                  病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況                  原則として毎月1回理事長が招集し、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。</li> <li>・ 会議体の実施状況（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/>無 ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法</li></ul> <p>ホームページを用いて公益通報・相談窓口のメールアドレス等の連絡先を恒常的に職員に対して周知。</p>